



当社では今後さらに加速するグローバル化の流れに対応するべく2005年にインド南部のトゥマクル（トムクール）市に現地法人 System Consultant Information India (P) Ltd. (以下 SCII) を設立しました。SCII はグローバルなシステム開発の拠点として、また、海外との業務において活躍できる人材を育成する為の研修施設として役割を備えています。

海外向けシステム開発 事例

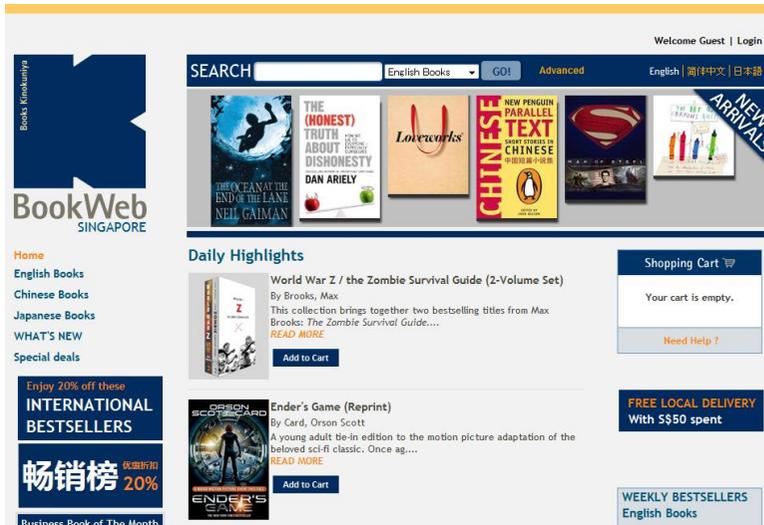


紀伊國屋書店 様

| | |
|-------|---|
| 創業 | 1927年 1月 |
| 資本金 | 3600万円 |
| 社員数 | 4000名 |
| 本社事務所 | 東京都目黒区下目黒3-7-10 |
| URL | http://www.kinokuniya.co.jp/ |

日本全国に店舗を展開する国内最大手の書店 株式会社 紀伊國屋書店 さま。
国内だけではなく、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、台湾、アメリカ、オーストラリア、U.A.E(ドバイ) 計8か国に26店舗（2013年10月 現在）を展開する等、積極的に海外への展開も図られています。

この度シンガポールの現地法人を開発の中心として、グローバル規模での新ECサイト（海外版BookWeb）を構築されるにあたり、当社のインド開発センターSCIIをその開発拠点としてご活用いただきました。



BookWebシンガポール
<http://www.kinokuniya.com/sg/>

海外版 BookWeb 開発の背景

～ ECサイト機能の拡充で 売上の強化を～

紀伊國屋書店さまでは、年々インターネットでの購買意欲が高まっているアジア圏等の国々において、店舗の展開だけではなく、ECサイトの拡充をも図り、グローバル規模で書籍の販売を強化することを目指されて来ました。海外版のECサイトはこれまでも稼働していましたが、新たに機能を拡充した新ECサイトBookWebを2011年のシンガポールを皮切りに、アジア圏を中心にリリースを開始されました。

現在ではアメリカ、ドバイを含め計7か国で稼働しています。対応言語は英語、アラビア語など5言語。通貨もドル、リングgit、バーツなど6種類に対応。様々な国で利用される為、開発にあたり非常に多岐にわたる設計・対応に苦心されました。

海外での開発に対する期待と懸念

～ 迅速な対応を求めて 開発は海外拠点を中心に～

グローバルな規模で使用される今回のECサイトの構築では、各拠点ごとにおける様々な違い（言語、商慣例など）を取り込みながらの設計・開発が必要でした。紀伊國屋書店さまでは、今後の機能の拡張や強化等を見据え、ユーザーからの要望に迅速に対応できる体制を確立し、グローバル規模で常に競争力の高いシステムとする為に、開発は実際のユーザーの近くで行うことを望まれました。それを実現する為の答えが海外拠点を中心とした体制での開発でした。

しかし一般的に海外での開発となると、言語や文化の違いや経験の差など、様々なギャップが発生します。これに起因してこれまで国内で通用していた開発上の論理や意図を現地開発ベンダーに理解させながら、国内開発と同等の品質を維持・管理することは難しいと言われています。品質やスケジュールに対する現地の開発担当者の理解が不十分だったり、その意識が日本と同じでないと、結果としてプログラムの品質やシステムの品質も低下してしまいます。この品質の維持にかかるコストは想定以上となり、なかなか効率の良い開発に至ることができないケースも散見されています。紀伊國屋書店さまにとりまして、この点が懸念材料となっていました。



©Dennis Gilbert

シンガポール 紀伊國屋書店

当社インド開発センターの選択

迅速な対応を実現する為に開発は海外で。品質は国内と同等レベルを。これらの要望を実現する為に紀伊國屋書店さまにおかれましては、シンガポールの現地法人 (Kinokuniya Book Stores of Singapore Pte. Ltd.) さまから当社に開発のご依頼をいただきました。

当社では2005年にインド南部ベンガルール (バンガロール) 近郊トゥマクル (トムクール) 市内に海外開発センターとして SCII を設立しております。このSCIIでは独自の日本式のカリキュラムの下で教育したインド人技術者が開発に従事しており日本の品質を理解した開発を可能にしています。

またインドをその拠点としている為、紀伊國屋書店さまにとりましても、アジア圏を中心としたBookWebシステムの開発センターとして最適とご判断いただきました。



お客様の声

シンガポール 紀伊國屋書店

取締役 十河 宏さま

シンガポールを拠点に、東南アジア、オーストラリア、台湾、中東に展開するECサイトの構築に貢献して頂きました。単に海外というだけでなく、市場の文化的多様性を意識しながらプロジェクトを進める必要がありました。

インド (SCII) と東京、シンガポール法人を結んでコミュニケーションしながら、国際的な外部ベンダーとのやりとりも頻繁に発生。インドのプロジェクト拠点がコントロールセンターとなり、欧米流、アジア流を問わず包括的に対応して頂きました。その結果、それぞれのマイルストーンにおいての問題点や改善可能性について認識を共有し、弊社側の課題事項、例えば多言語化に対応する為の、各種用語の翻訳を計画を立てて進めていく事ができたと思います。

B to Cサイトなので多様性の理解とその対応にゴールはありませんが、グローバルな視点で進めた当プロジェクトが将来のプロジェクトに示唆するものは多いと思われれます。



プロジェクトの進め方とその体制

～ 品質を理解した インド人技術者 とともに ～

SCIIには当社の日本人技術者がインドに駐在しており、統括リーダーとしてプロジェクトの進捗管理・品質管理を担当しています。実際に開発を担当するSCIIインド人技術者は英語で直接シンガポールなどの海外拠点の方々とは打ち合わせをしながら開発を進めました。

要件定義や設計フェーズのポイントにおいては、各海外拠点のご担当者さまがインドSCIIに一同に会し、インド人技術者も同席の上、新システム機能のレビュー／打ち合わせを数回実施しました。

この様に初期の段階から、実際に開発を担当するインドスタッフが直接会議に参加した事で、品質に対する意識の統一を実現し、国内での開発と同等の品質をご提供するプロジェクト運営を可能にしました。

今後の展開

リリース当初はシンガポール、マレーシア等5か国でしたが、その後、台湾、アメリカなど、紀伊國屋書店さまの海外展開に合わせてシステムも拡張されてきています。今後は、一般コンシューマ向けのECサイトだけではなく海外の大学や公共図書館など法人様向けのECサイトへの拡張も予定されています。

紀伊國屋書店 (日本、海外拠点) さま、当社 (日本)、SCII (インド) の連携を更に強化させ、海外版BookWebを始めとする紀伊國屋書店さまの海外戦略に役立つシステムをご提供して参ります。

～ 安心できる国内サポート体制 ～

また、日本国内においてもお客様窓口として当社内にSCIIサポート体制を確立し、万全の態勢を取りました。国内の紀伊國屋書店さま責任者の方々も含め、シンガポールやアメリカなど、各主要拠点の開発担当者の方々とは、定期的に最低月1回、インターネット回線を利用したWeb会議を開催。インド駐在の日本人統括リーダーを中心に日本語での進捗の確認や、発生する問題等の認識の統一を図りながら開発作業を進めました。

このような体制の下でプロジェクトを進めた事で、紀伊國屋書店さまにも当初の懸念を払拭し、ご安心頂くことができました。



内容、費用等等、本件についてのお問合せ先

株式会社 **システムコンサルタント**

第一営業部 / 国際・総合企画部

〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-14-6

TEL 03-3829-4631 FAX 03-3829-4464

URL <http://www.ksc.co.jp/service/global/>

Mail sales-info@ksc.co.jp